

### 配当金のお支払いについてのご案内

第105期期末配当金は、次のいずれかの方法により、2023年6月28日(水)からお支払い申し上げます。

#### ■口座振込にてお受け取りの株主様

「配当金計算書」および「お振込先について」を同封していますので、ご確認ください。

#### ■株式数比例配分方式をご指定の株主様

「配当金計算書」および「配当金のお受け取り方法について」を同封しています。なお、源泉徴収税額計算は証券会社等にて行われますので、確定申告の際は、お取引の証券会社等へご確認ください。

#### ■配当金領収証によりお受け取りの株主様

同封の「第105期期末配当金領収証」記載のお支払い方法をご覧の上、最寄りのゆうちょ銀行本支店・出張所および郵便局(銀行代理業者)にて、払渡しの期間内(2023年6月28日(水)~2023年7月31日(月))にお受け取りください。なお、同封の「配当金計算書」は、配当金をお受け取り後の配当金額のご確認資料としてご使用いただけます。

#### ■次回より口座振込をご希望の場合

証券会社等に口座をお持ちの株主様はお取引の証券会社等にて、特別口座の株主様はみずほ信託銀行にて、それぞれお手続きください。

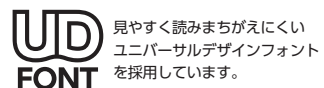
### 株式事務に関するご案内

	証券会社等で 株式を保有されている場合	証券会社等で株式を保有されていない場合 (特別口座の場合)
住所変更、株式配当金受取り方法の変更およびマイナンバーのお届出などのお問い合わせ	お取引の証券会社等になります。	みずほ信託銀行 証券代行部 <ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページ <a href="https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html">https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html</a></li> <li>●フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)</li> <li>●電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)</li> <li>●郵送物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部</li> <li>●各種手続お取り扱い場所 みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トランスラウンジ除く</li> </ul>
未払配当金、その他当社株式関係書類についてのお問い合わせ	右記みずほ信託銀行までお問い合わせ願います。	
株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求)についてのお問い合わせ	お取引の証券会社または右記みずほ信託銀行までお問い合わせ願います。	
株式等に関するマイナンバーのお届出のお願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式等の税務関係のお手続きに関しては、マイナンバーのお届出が必要です。</li> <li>・お届出が済んでいない株主様は、上記お問い合わせ先へマイナンバーのお届出をお願いします。</li> </ul>	



### 単元未満株式をお持ちの株主様へのご案内

- 単元未満株式は市場で売買できません。買取・買増については、お取引の証券会社等にご相談ください。
- 特別口座にある株式の買取・買増については、みずほ信託銀行にご相談ください。  
(特別口座では単元株の売買ができないため、売買をご希望の方は、証券会社等に口座を開設し株式を振り替えていただく必要があります)

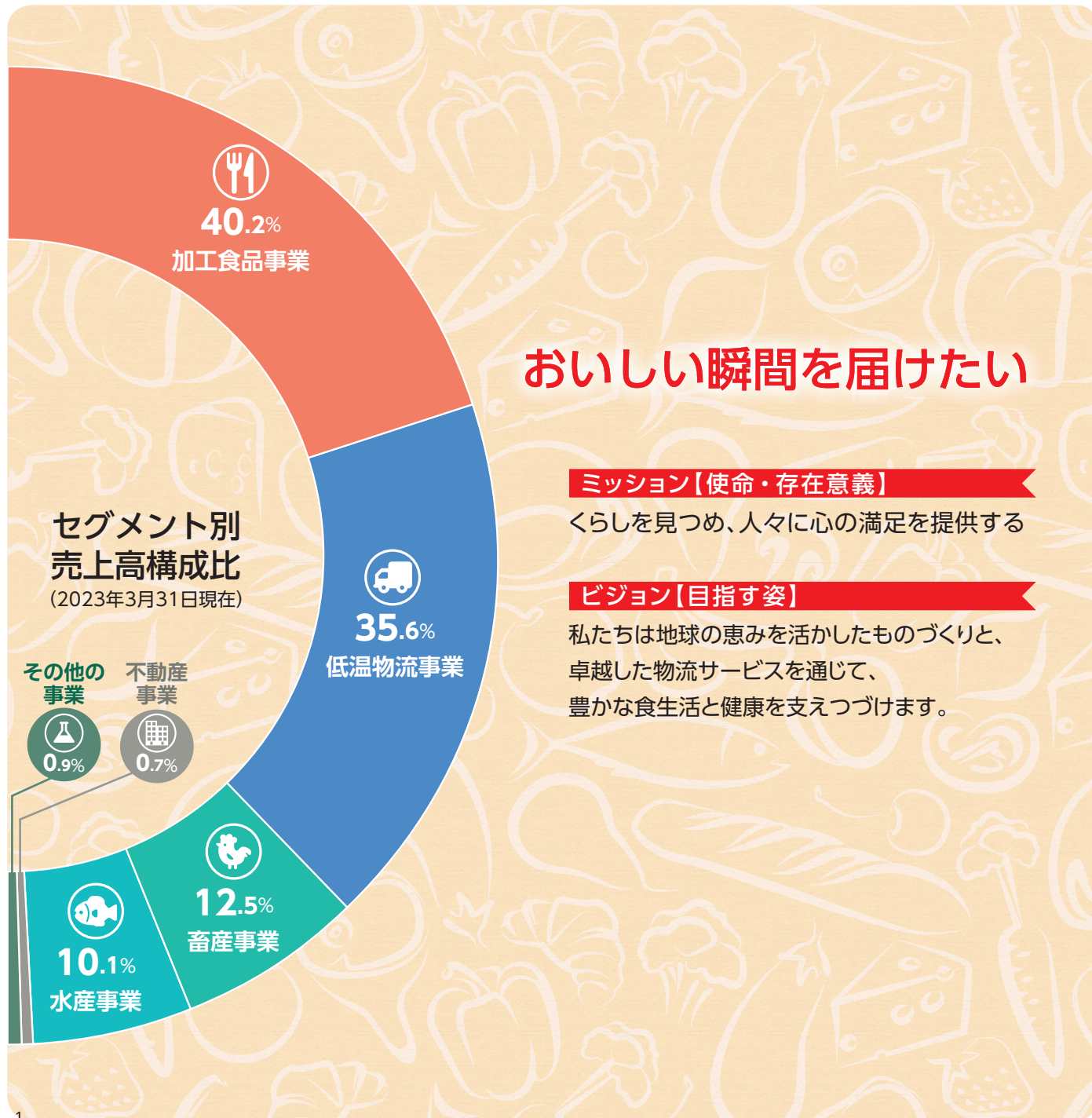


第105期 株主通信  
2022年4月1日~2023年3月31日



株式会社ニチレイ

証券コード：2871



## おいしい瞬間を届けたい

### ミッション【使命・存在意義】

暮らしを見つめ、人々に心の満足を提供する

### ビジョン【目指す姿】

私たちは地球の恵みを活かしたものづくりと、卓越した物流サービスを通じて、豊かな食生活と健康を支えつづけます。



## 豊かな食生活と健康を支える企業として社会的価値と経済的価値の向上を目指します

2022年度は売上高・営業利益とも、前期および計画値を大きく上回ることができ、グループ中期経営計画「Compass Rose 2024」の初年度として、良いスタートが切れました。当社の活動を日頃から応援してくださっている株主の皆様へ改めて感謝申し上げます。

2023年6月

代表取締役社長

大櫛 顕也





2年目を迎えたニチレイグループ中期経営計画「Compass Rose 2024」。地政学リスクの高まりに加え、急激な為替変動や原材料およびエネルギー価格の高騰など、厳しい環境において、ニチレイグループはいかに前進していくのか。大櫛顕也社長に聞きました。

**Q1** 「Compass Rose 2024」の初年度（2022年度）を振り返ると。

**A1** まず業績面については、グループ連結売上高が前期比10%増の6,622億円となり、過去最高を更新しました。加工食品事業や低温物流事業といった主力事業において、海外事業を大きく伸ばすことができました。営業利益についても、当初計画を上回る前期比5%増の329億円となりました。加工食品事業の価格改定や低温物流事業の電力・燃料サーチャージ収受といったコストアップへの対応、これまで苦戦していたバイオサイエンス事業

が新型コロナウイルスとインフルエンザの抗原同時検査キットの販売拡大により回復したことなどが主な増益要因です。

事業別では、加工食品事業において主力カテゴリーのチキン加工品の販売数量が伸長したことや、海外販売も好調に推移したことにより増収となりましたが、原材料価格高騰等の影響により減益となりました。低温物流事業では、様々なコストアップ影響を受けながらも、輸配送や保管需要を着実に取り込み、増収増益となりました。水産・畜産事業も、外食向けの販売等が好調でしたが、特に畜産事業において、飼料価格や動力燃料費の上昇などマイナス影響がありました。

**Q2** コストアップ対応を含め2023年度に注力していくことは？

**A2** 加工食品事業を手掛けるニチレイフーズでは、2022年度に複数回にわたる価格改定を家庭用、業務用それぞれで実施しました。これに

より原材料・エネルギー価格の高騰、さらには急激な円安進行などに起因するマイナス影響を緩和しました。ただし全てを吸収したわけではないので、コストアップへの対応策については今後も継続的に検討してまいります。

一方で、新たな付加価値による市場創出にも取り組んでいます。2022年春の新商品として「冷やし中華」を発売しましたが、このような個食麺類を中心にパーソナルユース商品の拡充と販路拡大を図り、今中計期間中にパーソナルユース商品の売上高を300億円規模に成長させていきます。

また、戦略カテゴリーの拡大として、米飯商品の販売強化にも注力します。時短ニーズの高まりやメニューの多様化などの影響から、中長期的には家庭内でごはんを炊飯する機会は減り、炒飯を中心とした加工米飯の需要が高まることが予想されます。今後の旺盛な需要に対応するため、福岡県に冷凍米飯専用工場を新設し、船橋工場とあわせて生産能力を約1.2倍(炒飯商品に限れば約1.5倍)に増強しました。

低温物流事業を手掛けるニチレイロジグループは、トラックドライバーの長時間労働規制に起因する「2024年問題」に対応していきます。具体的には、「SULS(サルス)」という次世代輸配送システムの運用を2022年度から開始しました。低温トレーラー



を活用することで長距離輸送の抑制や物流拠点での手待ち時間の削減を図っていきます。現在は東名阪で運用しておりますが、全国へ順次拡大していきます。

水産・畜産事業を手掛けるニチレイフレッシュにおいても、コスト変動に伴う価格改定は継続的に行っていますが、新たな価値創造として、飼料や飼育方法等で差別化した商材「こだわり素材」の拡充を図っています。畜産品では、今春から、飼料にゴマを配合した「ごまんてん」ポークの販売を開始し、「亜麻仁の恵み」シリーズとともに、健康価値食肉として訴求していきます。また、水産品についても、MSCやASCといった認証商材の取り扱いを拡大していきます。

Q3

今後の海外事業の展望について教えてください。

A3

2022年度のグループ全体の海外売上高は、前期比37%増の1,333億円となりました。現中計最終年度の海外売上高目標が1,300億円でしたので、初年度で上回ることができました。特に、加工食品事業の北米、低温物流事業の欧州が今後の海外成長をけん引します。

ニチレイフーズの米国子会社イノバジアン・クイジーン社は、現地の食嗜好に合わせた商品開発力や大手量販店への販売力などを強みとしています。主力のチキン商品や、自社生産を開始した米飯商品の販売を強化していきます。またアペタイザー（前菜）商品の拡充にも注力していきます。ブラジルのニアグロ社では、アセロラ原料事業を展開しています。従来のアセロラ果汁に加えて、アセロラパウダーの生産も開始し、欧米で注目されている「クリーンラベル」需要に対応してまいります。

ニチレイロジグループは、1980年代後半のオランダ、ドイツへの進出を皮切りに、欧州（ポーランド、

フランス、英国）での事業を拡大しています。国境をまたぎ、海上輸送から通関・保管・運送一体でのワンストップの低温物流サービスを提供することで、収益の最大化を図ってまいります。また、アジアでは中国、タイ、マレーシアで事業展開していますが、2022年度はベトナムに合併会社を設立しました。本格的な事業展開は2024年度からを予定していますが、アジアにおいても更なる事業拡大を進めていきます。

ニチレイフレッシュの海外事業は水産品の海外輸出が中心です。主に北米や中国向けに、ホタテなどの貝類やエビの販売を行っており、こちらも拡販に努めていきます。

Q4

今後の投資計画についてもお聞かせください。

A4

加工食品事業では、キューレイ（福岡県）に環境配慮型の冷凍米飯工場を新設しました。2023年4月より稼働を開始しており、船橋工場とあわせ東西2拠点体制とすることで、旺盛な冷凍米飯需要に対応していきます。この工場では、独自製法を採用することで、炒め工程にかかるCO<sub>2</sub>を削減しています。また、排熱の有効活用や太陽光パネルの設置などにより、将来的に電気由来のCO<sub>2</sub>

排出量をゼロにすることを目指しています。

低温物流事業では、2024年1月稼働予定で、キョクレイの神戸六甲物流センターを新設し、関西地区での果汁・乳製品保管需要に対応してまいります。

また、成長投資に加え、太陽光発電設備の導入などの環境対応投資も継続して行います。グループ全体として、DX教育やサステナビリティ教育といった人財投資も積極的に行ってまいります。

これらの投資を進めることで、サステナビリティ経営の加速と資本効率を追求し、社会的価値と経済的価値の向上を目指していきます。

Q5

株主還元について教えてください。

A5

配当については、安定的かつ継続的な配当を実施することを最優先としています。2023年3月期は、前期に比べて2円増配の年間52円としましたが、株主の皆様への配当の更なる充実を図る観点から、連結自己資本配当率（DOE）を4.0%程度に引き上げました。これにより2024年3月期は前期に比べて22円増配の年間74円にする予定です。

引き続き、着実な業績向上と併せて株主還元の

充実化を図っていくことで、株主の皆様のご期待に応えていく所存です。

厳しい事業環境は続きますが、掲げた重点施策を着実に実行し、急激な事業環境の変化にも柔軟に対応してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## ■ 「ニチレイグループ持続可能な水産物調達ガイドライン」および「ニチレイグループ持続可能なパーム油調達ガイドライン」を制定

㈱ニチレイは、2020年に特定したグループ重要事項(マテリアリティ)「持続可能な食の調達と循環型社会の実現」の取り組みとして、「ニチレイグループ持続可能な水産物調達ガイドライン」および「ニチレイグループ持続可能なパーム油調達ガイドライン」を制定いたしました。





近年、気候変動による食資源への影響やサプライチェーン上の人権や環境に関する課題など食を取り巻く社会課題が指摘されています。特に、当社グループの事業活動を支える重要な食資源である水産物とパーム油に関しては、持続可能な調達に取り組むことが喫緊の課題と認識しています。

当ガイドラインは、国際的なルールに則り、かつ有識者のご意見を反映させ、持続可能な水産物とパーム油の調達活動に関する基本姿勢および取り組みを具体的に定めたものです。

また、当ガイドラインを確実に実行していくため、重要事項(マテリアリティ)「持続可能な食の調達と循環型社会の実現」の2030年度グループ目標にKPIを追加いたしました。

今後は、当社での取り組みはもとより、サプライヤーや取引先の皆様とも当ガイドラインへの理解と価値観の共有を通じ、共に、持続可能な食の調達および持続可能なサプライチェーンの構築を目指してまいります。

### 新たに追加したニチレイグループマテリアリティと2030年度目標(KPI)

マテリアリティ	グループ施策	2030年度グループ目標(KPI)	SDGsのゴールとターゲット
持続可能な食の調達と循環型社会の実現 	持続可能な資源調達やサーキュラーエコノミーの実現に取り組む 	・水産事業における水産物の持続可能な水産物調達ガイドラインに準じた調達率 ・うち、MSC・ASC認証品等のグローバル水産物認証品比率	・100% ・50%  14.4
		・持続可能なパーム油(RSPO認証油)の調達比率	・100% (認証油)  15.2

## ■ 「日経統合報告書アワード2022」優秀賞を受賞



ニチレイグループ  
統合レポート2022



㈱ニチレイは、日本経済新聞社主催の「日経統合報告書アワード2022」において、優秀賞を受賞しました。

「日経統合報告書アワード」は、日本企業が発行する統合報告書の更なる充実と普及を目的として、日本経済新聞社が開催しているものです。

今回の受賞は、企業特性に合った重要な経営目標指標の抽出やKPIの提示、成果公表に関する項目が特に評価されました。

企業経営における非財務情報を開示し、財務情報に包摂して企業価値を説明することの重要性が高まる中、統合報告書は近年大いに注目を集めています。

当社では、投資家を中心としたステークホルダーの皆様との重要なコミュニケーションツールとして、2018年より統合レポートを発刊しております。当社の目指す姿や、サステナブルな成長に向けた価値創造の取り組みを体系的にご理解いただくため、財務情報と非財務情報を事業戦略とともに、わかりやすくお伝えすることを目指しています。

今後も統合レポートの一層の改善に努め、有益な財務・非財務情報を発信してまいります。

### 「健康経営銘柄2023」選定および「健康経営優良法人(ホワイト500)」認定

㈱ニチレイは、2023年3月、経済産業省と東京証券取引所より「健康経営銘柄2023」に選定されました。「健康経営銘柄」は、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」を積極的に進めている企業を公表するもので、

当社は2020年度、2021年度に続く3回目の選定となります。併せて、経済産業省より優良な健康経営を実践している法人として、「健康経営優良法人(ホワイト500)」にも制度創設以来7年連続で認定されました。

今後も健康経営を人財戦略の土台として、従業員の心身の健康を保ち、安全で風通しよく活性化された職場環境をつくってまいります。



### 「トルコ・シリア地震」に伴う被災地への支援について

2023年2月に発生した「トルコ・シリア地震」において、㈱ニチレイは、被災地での食料支援にお役立ていただきたいの思いから、国際連合の食料支援機関である国連WFP協会に対して、1,000万円を寄付しました。

犠牲になられた方々へ謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。





## 環境にも配慮した冷凍米飯工場を新設

現在、女性や高齢者の就業率の高まりや世帯の少人数化、単身世帯の増加など中長期的な社会構造の変化を受けて「食の外部化」が進展しています。このような背景のなか、家庭内での炊飯機会が減少し、おいしさと簡便調理を兼ね備えた家庭用冷凍米飯の需要が高まっています。

これらの需要に対応するため、(株)ニチレイフーズは、グループ会社である(株)キューレイ(福岡県宗像市)に約115億円を投資し、冷凍米飯工場を新設いたしました。

最新の炒め工程を伴う米飯の生産能力は、現在稼働中の船橋工場(千葉県船橋市)とあわせて約1.5倍となりました。東西2拠点の生産体制を構築することで、伸長する冷凍米飯の需要に対応するだけでなく、BCP(事業継続計画)対応も推進してまいります。



新工場外観(イメージ)

所在地：株式会社キューレイ 第三工場 (福岡県宗像市光岡588-8)	
延床面積：約10,200㎡	投資金額：約115億円
生産能力：約70トン/日	従業員数：90人程度
事業内容：冷凍米飯の製造・包装	

### 新ラインの特徴

#### 特徴1 高付加価値商品の提供

従来生産していた業務用米飯に加え、「本格炒め炒飯。」をはじめとした家庭用米飯のほか、炒め工程を活かした多種多様な米飯商品の生産が可能。ライン上の工夫により、これまで以上に具材を大きくした高付加価値商品なども提供可能となりました。



業務用  
【特撰中華直火炒め  
チャーハン】

家庭用  
【本格炒め炒飯。】



#### 特徴2 省人化による生産性の向上

従来の人手作業をロボット化するほか、無人搬送などへ代替することで生産性を向上し、持続可能なサプライチェーン構築を推進してまいります。

#### 特徴3 環境負荷低減の取り組み

直火加熱とIH加熱をハイブリッドする独自製法で、炒め工程にかかるCO<sub>2</sub>を削減。太陽光パネルの設置、再生可能エネルギーの活用などを推進し、キューレイ工場全体の「電気由来のCO<sub>2</sub>排出量をゼロ」を実現します。

## NEW 2023年春季新商品



### 「超メンチカツ」

食べ応えのある厚みが特長のメンチカツです。オリジナルの成型機を使用し、ゴロゴロとした豚肉と牛肉、ザクザクとした玉ねぎの具材感にこだわり、既存の冷凍メンチカツの概念を超えた逸品に仕上げました。ボリューム感があり、食卓のおかずとしてもご満足いただけます。



### 「ささみ磯辺揚げ」

鶏のささみを使用した磯辺揚げです。衣には香り高い国産あおさを使用し、肉にはだし醤油を加えて風味豊かに仕上げています。食卓のおかず、お弁当、うどんの具材など様々な食シーンにご利用いただけます。



### 「冷やし中華」

昨年、大きな話題となった「冷やし中華」。具材にかにかまが加わり、彩り豊かに再登場！

氷を使用した独自技術で、電子レンジで温めても冷たく仕上げることができる冷やし中華です。小麦粉の種類と製麺方法にこだわった自家製麺を使用しており、つるつるとしたのど越しの良い食感を実現しました。自家製煮豚、錦糸卵、きざみオクラ、紅生姜、かにかまの5種類の具材と、3種類の酢を使用した奥深い旨味の特製醤油だれで、満足感のある食べ応えです。簡便調理が可能なトレイ入り1人前商品です。



## ジャパン・フード・セレクションにて 純国産鶏種「純和鶏<sup>じゅんわけい</sup>®」(もも肉)が2度目となる「グランプリ」を受賞

(株)ニチレイフレッシュが養鶏・販売している「純和鶏」(もも肉)が、一般社団法人日本フードアナリスト協会主催「第59回ジャパン・フード・セレクション」にて最高位となる「グランプリ」を受賞しました。グランプリ受賞は2020年12月に続き2度目となります。

### ■「純和鶏」とは

日本国内で飼育された純国産鶏種と呼ばれる肉用鶏です。国産肉用鶏の中でも純国産鶏種の自給率はわずか1~2%程度(独立行政法人家畜改良センター調べ)で、希少性の高い鶏肉です。例えば、鳥インフルエンザなどの疫病で海外からの輸入が停止されれば、国内の養鶏は大きな影響を受けることになります。基礎鶏と言われる4世代前から日本で育種改良された「純和鶏」は、食料の持続的自給の面からも海外に依存しない、まさに日本のための鶏肉ブランドと言えるのです。

「純和鶏」は全国の小売店などに販売しており、もも肉は適度な歯応えやコクなどをご評価いただいております。



### ■「純和鶏」循環型生産プロジェクト

「純和鶏」を飼育しているニチレイフレッシュファーム洋野農場では、「純和鶏」の鶏ふんを有機質肥料に加工し、「純和鶏」専用飼料となる飼料米の生産に活用しています。JA新しいわて農協の協力で、岩手県軽米町と洋野町、その近郊の稲作農家と契約を結び、飼料米を生産。水田の多くは、米の生産調整により生まれた休耕田を活用したものです。「純和鶏」から始まる循環型の生産サイクルは、地域農業の再生にも貢献しています。



洋野農場 鶏ふん有機肥料化設備 有機肥料化された鶏ふん



### ジャパン・フード・セレクションとは

一般社団法人日本フードアナリスト協会が2013年10月より開始した日本オリジナルの本格的な食品・食材を評価・認証する制度です。食情報の専門家フードアナリスト23,000人以上が審査に関わり、味だけでなく商品の話題性やネーミング、パッケージのデザイン、扱いやすさなど、100もの審査項目を上級フードアナリストが厳密に審査を行い、賞を決定します。

## MSC漁業認証\*を取得したあさり漁業が、 第4回ジャパン・サステナブルシーフード・アワード コラボレーション部門で「チャンピオン」を受賞

(株)ニチレイフレッシュが取り組むMSC漁業認証を取得したあさり漁業が、第4回ジャパン・サステナブルシーフード・アワード コラボレーション部門で「チャンピオン」を受賞しました。

ジャパン・サステナブルシーフード・アワードは、持続可能な水産業の推進やサステナブル・シーフードの普及に貢献したプロジェクトを表彰するものです。今回の受賞は、生物多様性保全の上でも意義の大きい干潟を保全し、漁業の改善活動を粘り強く行ったこと、トレーサビリティを担保し、MSC漁業認証も取得したことが高く評価されました。

中国の主要なあさりの生産地の一つにもなっている黄海の沿岸域は、渡り鳥の重要な中継地であり、魚類や貝類など多様な生物が生息し豊かな生態系を築いています。

(株)ニチレイフレッシュは、同沿岸域で漁獲されるあさ

りの現地加工会社、<sup>たんとうたいこうしょくひんゆうげんこうし</sup>丹東泰宏食品有限公司、WWF中国、WWFジャパンの4社で協業し、持続可能なあさりの生産を実現するために、2016年11月に漁業改善プロジェクトを開始。調査を通じて漁業が生態系に与える影響を明らかにし、漁業管理計画のもとで中長期にわたる適切な管理を促進するなどあさり漁業の改善を進め、2021年9月にMSC漁業認証の取得に至りました。

中国と日本のサプライチェーン上の関係者の協働によるMSC漁業認証の取得は、中国で初めての事例となり、今回の受賞も4社での受賞となります。

これからも生物多様性の保全と水産物の持続可能な生産の両立を推進し、MSC漁業認証のあさり製品の普及に努めてまいります。

\*MSC (Marine Stewardship Council : 海洋管理協議会) 漁業認証とは水産資源や海洋環境に配慮し、適切に管理された持続可能な漁業に対する認証制度



授賞式の様子



黄海沿岸域で漁獲されたあさり



### 霧島酒造株式会社と協業

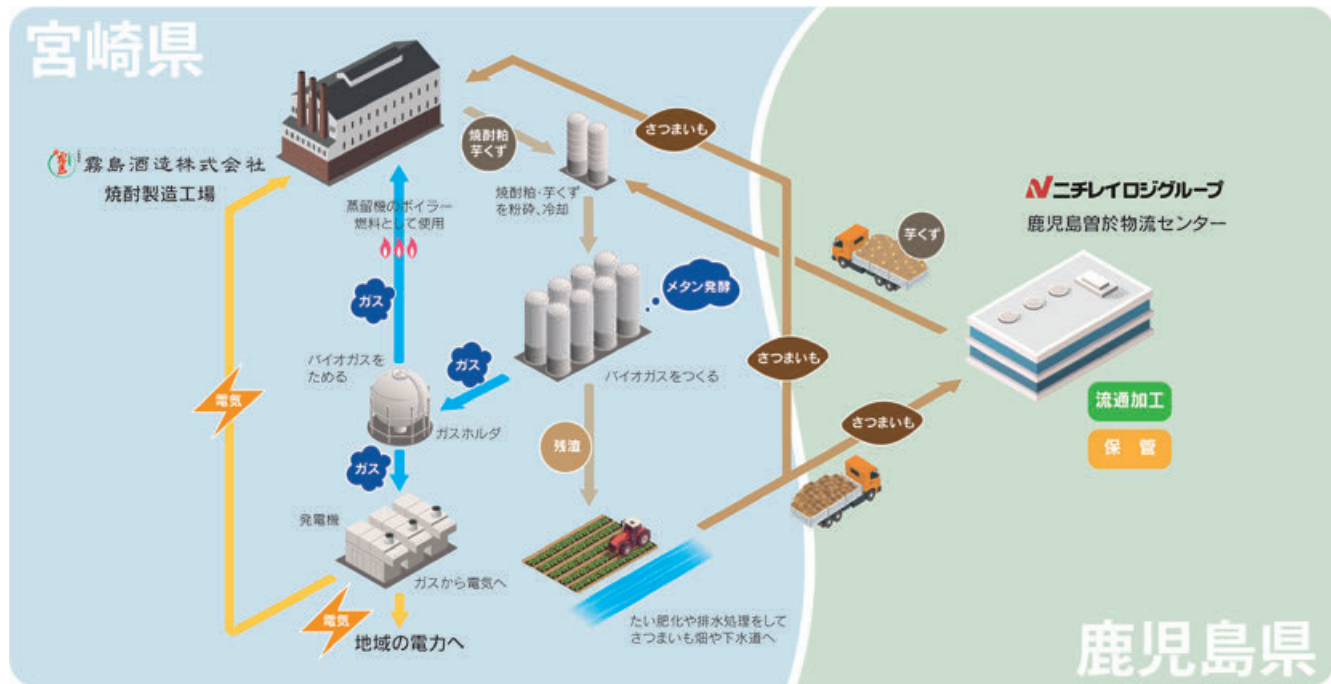
## 流通加工業務の過程で発生する芋くずを活用し、バイオガス燃料へ



加工工程で発生した芋くず

低温物流事業を担うニチレイロジグループの鹿児島曾於物流センターでは、焼酎メーカーである霧島酒造(株)から流通加工および保管業務を受託しており、焼酎の原料となるサツマイモの受入から洗浄・選別・蒸し・急速凍結・保管を行っています。加工工程で発生する芋くずは、これまで廃棄物収集運搬事業者を通じて鹿児島県内の産業廃棄物処理施設で処分していましたが、これらを有効活用できないか検討を進めてまいりました。

### リサイクル協働運用 イメージ図



### リサイクルプラントへ芋くずの運搬が可能に

今回、宮崎県から県外産業廃棄物の搬入承認を受けたことで、鹿児島県で発生した芋くずを宮崎県にある霧島酒造(株)のリサイクルプラントへ運搬することが可能となりました。



### 芋くずからバイオガスを生成

リサイクルプラントでは、微生物を使って焼酎粕や芋くずをメタン発酵させ、バイオガスを生成しています。生成されたバイオガスは、焼酎製造工程のボイラー燃料となるほか、電力へと変換(サツマイモ発電)し、工場や地域の電力としても活用されています。今回の取り組みで新たにリサイクルが可能となった芋くずは月間30トン程度、サツマイモの収穫期が9月～11月の3か月であるため、年間では90トン程度で、これはバイオガス発生量9,000Nm<sup>3</sup>(ノルマル立米)に相当します。

霧島酒造(株)が注力する焼酎製造副産物のリサイクル活動に物流受託企業として初めて参画したニチレイロジグループ。これからも地域の人びとの暮らしと食を支える共創パートナーとして連携し、環境負荷の低減に取り組み、持続可能な循環型社会の実現に貢献してまいります。

## 冷蔵・冷凍EVトラック 運行開始

ニチレイロジグループは、2023年2月より「冷蔵・冷凍EVトラック」の運行を開始しました。今回導入した3台の車両は、(株)ロジスティクス・ネットワークが首都圏における配送に活用し、CO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献してまいります。

これからも環境負荷低減に取り組み、お客様のサプライチェーンを支える持続可能な物流の実現に努めてまいります。



### 冷蔵・冷凍EVトラックの概要

車 両	eCanter (三菱ふそうトラック・バス株式会社)
架 装	庫内乾燥モード付電動式冷凍装置 (トブレック株式会社)
車両総重量	7.5tクラス
充電容量	81kWh
連続運転距離	約100km
安全装備	衝突被害軽減ブレーキ・車両安定性制御装置・車線逸脱警報装置・車両接近通報装置
特 長	ゼロエミッション車*からの給電で駆動する電動式冷凍装置「ERシステム」に加え、運行終了時の庫内結露を速やかに乾燥させる庫内乾燥モードも搭載。静音かつ走行時の振動が少なく、乗務員の負担も軽減。 *ゼロエミッション車とは走行時にCO <sub>2</sub> などの排出ガスを出さない車両





## 合併会社を設立しベトナムに進出

(株)ニチレイロジグループ本社は、2023年1月31日にベトナムで低温物流事業を営むTan Bao An Logistics Joint Stock Company(以下TBA社)と合併会社の設立に関する契約を締結しました。新会社には、2023年度中に出資を完了し、2024年度中に新センターを設立、事業開始を予定しております。



### ■ 合併会社設立の背景

ニチレイロジグループは、1988年のオランダを皮切りに欧州へと進出。2004年から中国、2013年からタイ、2018年からマレーシアと、アジア圏でも事業を展開することで、海外事業を拡大してまいりました。さらなる成長のため、このたび進出を決めたベトナムは、農林水産品を中心とする輸出商材における巨大市場です。さらに中間所得層の増加に伴う生活水準の向上により、輸入商材や小売関連商材をはじめとする国内消費需要が伸長しており、きめ細やかな温度管理が求められる低温物流市場の拡大が見込まれます。

合併相手であるTBA社は、自社所有の冷蔵・冷凍トラックを活用し、主に小売店向けの輸配送事業を手掛

けるベトナム大手の低温運送会社です。ニチレイロジグループの強みである冷蔵倉庫運営を含めた包括的な低温物流事業のノウハウを活用することで、お互いの強みを活かした高度な低温物流サービスを提供してまいります。

### ■ 今後の予定

新会社は、2024年度中を目標に、ホーチミン市中心部から約20km南に位置し、近年輸出貨物取扱拡大が期待されているヒエップフック港にもアクセスが良いロンアン省ロンハウ工業団地に冷蔵倉庫を新設する予定です。将来的には、ベトナム国内の低温物流にとどまらず、周辺国で進出済みのタイやマレーシアとの連携も視野に入れた事業展開を目指してまいります。

#### 合併会社の概要

商号	Nichirei TBA Logistics Vietnam LLC
本社所在地および冷蔵倉庫建設予定地	Lot D.03, Street No. 01, Long Hau Industrial Park, Can Giuoc District, Long An Province, Vietnam
資本金	約4,800億ベトナムドン(約27億円)
出資比率(出資完了時点)	ニチレイロジグループ本社：85% TBA社：15%
事業内容	冷蔵倉庫業(貨物保管・急速凍結・クロスドッキング)、利用運送業



新センター外観(イメージ)

## 連結決算ハイライト

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

### 連結貸借対照表(要旨)

区分	金額
流動資産	196,695
固定資産	260,637
<b>資産合計</b>	<b>457,333</b>
流動負債	130,086
固定負債	93,733
<b>負債合計</b>	<b>223,819</b>
株主資本	206,490
その他の包括利益累計額	17,952
非支配株主持分	9,070
<b>純資産合計</b>	<b>233,513</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>457,333</b>
設備投資等の金額	30,416
有利子負債(リース債務除く)	114,580 (100,064)
<b>1株当たり純資産額</b>	<b>1,757円70銭</b>

### 連結損益計算書(要旨)

区分	金額
売上高	662,204
営業利益	32,935
経常利益	33,448
税金等調整前当期純利益	32,987
当期純利益	23,638
親会社株主に帰属する当期純利益	21,568
減価償却費	22,198
研究開発費	1,892
<b>1株当たり当期純利益</b>	<b>167円14銭</b>

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

区分	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,865
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26,844
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,591
現金及び現金同等物の期末残高	27,767

社名 株式会社ニチレイ

所在地 〒104-8402  
東京都中央区築地六丁目19番20号  
ニチレイ東銀座ビル

設立 1942年12月\*

役員	代表取締役社長	大 櫛 頭 也
	取締役上席執行役員	梅 澤 一 彦
	取締役上席執行役員	竹 永 雅 彦
	取締役上席執行役員	田 邊 弥 弥
	取締役上席執行役員	鈴 木 健 二
	取締役上席執行役員	高 久 祐 一
	社外取締役	昌 子 久 仁 子
	社外取締役	鍋 嶋 麻 奈
	社外取締役	濱 逸 夫
	社外取締役	濱 島 健 爾
	常勤監査役	加 藤 達 志
	常勤監査役	片 淵 哲 郎
	社外監査役	齊 藤 雄 彦
	社外監査役	朝 比 奈 清
	社外監査役	清 田 宗 明
	上席執行役員	狩 野 豊
	上席執行役員	横 井 英 夫
	執行役員	奥 河 卓 司
	執行役員	坂 口 讓 司

会計監査人 EY新日本有限責任監査法人  
東京都千代田区有楽町一丁目1番2号  
東京ミッドタウン日比谷 日比谷三井タワー

\*前身の帝国水産統制株式会社の設立年月  
1945年12月 日本冷蔵株式会社に改組

発行可能株式総数 …………… 360,000,000株

発行済株式総数 …………… 134,042,599株  
(うち自己株式 6,351,246株)

単元株式数 …………… 100株

株主数 …………… 22,588名

■大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	25,715	20.1
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	13,793	10.8
日本生命保険相互会社	5,744	4.5
株式会社みずほ銀行	3,813	3.0
株式会社日清製粉グループ本社	2,719	2.1
農林中央金庫	2,675	2.1
株式会社三菱UFJ銀行	2,554	2.0
富国生命保険相互会社	2,050	1.6
GOVERNMENT OF NORWAY	1,884	1.5
住友生命保険相互会社	1,855	1.5

(注) 1.持株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。  
2.持株比率は、自己株式(6,351千株)を控除して計算しています。  
小数点第2位で四捨五入して表示しています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌3月31日まで
定時株主総会	6月
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
上場証券取引所	東京(プライム)
証券コード	2871
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告により行います。公告掲載場所は当社ホームページhttps://www.nichirei.co.jp/とします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に 公告を掲載します。

上場株式等の配当等に係る  
税金についてのご案内

2013年12月31日をもって上場株式等の配当等に係る軽減税率が廃止されており、今回の第105期期末配当金の税率は本則税率となります。また、2037年12月31日までは、復興特別所得税として基準所得税額に対して2.1%を乗じた金額が課税されます。具体的な税率は下表をご参照ください。

■上場株式等の配当等に係る税金と税率

	2037年12月まで	2038年1月以降
所得税	15.315%	15%
復興特別所得税		-
住民税	5%	5%
合計	20.315%	20%

\*上記税率は源泉徴収が行われる場合の税率です。なお、内国法人の場合は住民税が徴収されません。  
\*発行済株式の総数等の3%以上に相当する数または金額の株式等を有する個人の大口株主様につきましては、別の税率となりますのでご注意ください。  
\*詳細につきましては、所轄の税務署にお問合せください。

株主・投資家、個人投資家向け情報サイト

最新IRニュース、最新の決算発表情報をご覧ください。また、個人投資家向け情報サイトでは、個人投資家説明会時の決算資料をはじめ、ニチレイグループのことをわかりやすく紹介しています。

●ニチレイメーリングサービス

ニチレイWebサイトの更新情報や新商品の情報を、電子メールでも受け取ることが可能です。登録は無料ですので、どうぞご利用ください。

<https://www.nichirei.co.jp/ir>

